

東京都赤十字血液センターで「ラクロス献血」を実施しました！

平成 29 年 3 月 28 日から 30 日の 3 日間、東京都赤十字血液センター（新宿区若松町）にて、日本ラクロス協会による、「ラクロス献血推進活動」（通称：ラクロス献血）が実施されました。

この活動は、献血者が減少しがちな春先にラクロス選手・関係者たちが、「日頃の社会への感謝を表す」という目的で、献血への協力を呼びかけてくださっているというものです。

ラクロス選手であり、日本ラクロス協会の広報委員長を担う浅岡大地さん（写真 3）にお話を伺いました。



写真 1 日本ラクロス協会のみなさん

スタッフとして会場のご案内や実施のサポートなどにご協力いただいています

僕は高校からラクロスをはじめていて、明治神宮にて行われていた「ラクロス献血」での献血が初めての献血でした。

日本ラクロス協会では、大会の運営を行う「大会」、初めてラクロスをする人への教え方やフォローを行う「新人」、そしてラクロスの広め知名度を上げていく「広報」と担当が分かれていますのですが、僕は広報委員長をしています。広報委員長として献血推進活動をする立場になったとき、献血に関するお話や情報を聞いて、現状を知りました。

正直にお話すると…献血者が足りていないという状況なんて全然知らなかったし、輸血を待っている人がこんなにたくさんいるんだということも知りませんでした。

献血って怖いというイメージがあるかもしれませんが、その怖いとか嫌だという思いを持ったままにならないように、活動の際に意識しています。けんけつちゃんと一緒に盛り上げたり、動画を流したりしてリラックスできるよう工夫しています。

献血に来てくれた人が帰る時に、怖かったなとか嫌だったなという気持ちではなくなっている様子を見ると、献血推進活動をやっている良かったなと感じます。



写真2 「ラクロス献血」会場の様子

明治神宮の実施ですと、外での実施になるので、寒いとかずっと立ちっぱなしということもあったのですが、今年は暖かい室内で、大きいスペースを使わせてもらって、いつもよりスムーズにできているんじゃないかと思います。ただ、学生はみんな元気なので、騒音にならないように注意喚起なども行っています。(笑)

今回のラクロス献血については、すごくたくさんの方に来てもらっていて、3日間で1195人のご協力をいただきました。みんなで目標を1000人以上！としていたので、嬉しいです。

僕も針が怖いってことがあったので、献血が怖いとか痛いのかな、と不安になる気持ちが分かります。だけど、自分の血液が輸血を待っている人の身体に入って、それがその人の生きる力になるとしたら…少し怖いとかあるかもしれないけれど、自分が5分、10分少しがんばったことで誰かの命が助かるって考えると、怖いという気持ちが楽になりました。



写真3

日本ラクロス協会 広報委員長 浅岡 大地さん

まだ献血をしたことがない人、怖いなと思っている人も、人間として一緒に助け合っていければな、と思います。ぜひ献血をお願いしたいです。